

第49回博報賞受賞

教育活性部門



通学路で児童主体の「シェークアウト訓練」



「いえまですごろく」

岡崎市立常磐東小学校

校長 近藤 嗣郎

活動研究テーマ

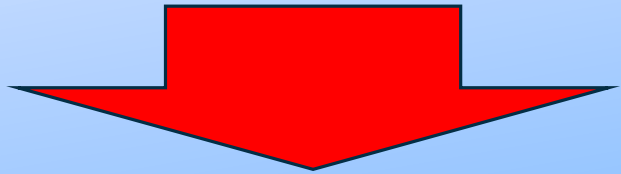
地域・学校・関係諸機関が連携した防災活動

- 今回の受賞は、6年間の子供たち並びに地域、教育委員会、関係諸機関の皆様のおかげです。
- 本校は全校児童45名で、研究中心は7名～8名の6年生の児童です。



1 研究のきっかけ

1. 土砂災害の危険な地域であること
県指定：土砂災害特別警戒区域
岡崎市：658箇所、常磐東学区：85か所
2. 過疎化・高齢化が進んでいること
3. 子供たちは、関わりが少なく消極的なこと
4. 社教・総代会から、防災意識向上への要望



- 地域、大学、行政と防災を軸に連携
- 子供たちに、地域の一員としての自覚、達成感や、自己存在感を高め、生きる力を育てること



2 主な活動 (H25~H30)

- ①防災紙マップ (H26) 総代さんや教授と協力しマップ作り
防災電子マップの作成と更新
(H25~H30)



- ②わき水や水源地、井戸や電気柵
獣被害の調査等 (H27~H29)

児童がドローンで学区を撮影



- ③ドローン撮影やアナグリフ写真で
防災3Dマップを作成 (H28)

災害時の避難の仕方の動画撮影



- ④災害時の避難の仕方や
担架の使い方の動画撮影 (H28)

⑤ 手作り木製防災看 (H25)
耐久性に優れた防災看板
の設置 (H27・H29)



防災看板の設置



⑥ 全世帯に防災アンケート
調査と発表 (H26～H30)

⑦ 通学時避難訓練 (H27)
放課の避難訓練(児童主体)
(H27～H30)



担架：放課時の避難訓練

⑧ 1泊2日の体育館での
避難所宿泊体験学習
(H29)



1泊2日の宿泊体験学習

⑨校内で防災研究発表会
(H25~H30)



校内・学区防災発表

学区総合防災訓練で発表
(H26・H29)



⑩防災リーフレット作成
(H28~H29)



防災リーフレット

⑪備蓄氷砂糖・防災用非常食
等の学区販売 (H26・H28)



公衆電話

⑫公衆電話を5台設置 (H25)



防災非常食・備蓄氷砂糖

氷砂糖シェア60%の中日本米糖(株)と、
賞味期限がなく、べたつきません。 共同で開発しました！
避難所で一粒、いかがですか？

舐めると唾液が出て、
喉が潤いた時に最適。
一粒で約20kcalあり、
エネルギーは十分。

原材料	砂糖
内容量	2kg(個包装) 標準450~500粒
保存方法	直射日光、高温多湿を避け、 常温で保存して下さい。

⑬児童の心肺蘇生法講習会
(H27~H29)



児童の心肺蘇生法講習会

⑭ テレビ交流防災授業 (H30)

長野県信里小学校とappear.inで
テレビ交流授業を実施

TV交流授業



⑮ 一時避難場所調査 (H30)

通学路で緊急の避難場所の調査
して、防災電子マップに掲載

⑯ 学区安全対策設置箇所調査 (H30)

危険箇所にはどのような安全対策が
されているか調査しマップに掲載

避難場所調査



⑰ 防災カード作り (H30)

防災シミュレーションゲームを子供が作り、
「どの状態でどう行動するか」判断

防災カード





H29市長より常磐東小の防災活動の表彰



H29「中部の未来創造大賞」で第1位



H26全国防災コンテスト(防災マップ) 優秀賞



H30 博報賞 (教育活性化部門)

3 これまでの受賞・助成



H 2 6 : 第5回防災コンテスト(e防災マップ)優秀賞

(こども防災賞)全国2位 防災科学技術研究所主催

H 2 7 : アクサユネスコ協会減災教育プログラムの研究委嘱校

H 2 8 : 東京海上教育振興基金より研究助成事業校

H 2 8 : 愛知県青少年赤十字活動の研究推進委嘱校

H 2 9 : 愛知県青少年赤十字活動の研究推進委嘱校&感謝状受賞

H 2 9 : 第18回「中部の未来創造大賞」で大賞(1位)を受賞

H 2 9 : 岡崎市より「防火防災活動」に関して市長より表彰状

H 3 0 : 第49回「博報賞」(教育活性化部門)を受賞

4 研究の成果

① 児童が防災活動を通して、「生きる力」が育ってきた

- ・安全で効果的な防災活動を身に付けること
- ・児童や地域の防災意識の高揚
- ・多種多様な人との関わりを通して「地域の一員としての自覚」
- ・児童の思考力・判断力・表現力の育成



② 地域の防災意識が高まってきた * アンケート結果より

- ・98%が「災害時に持ち出せる備えはある」
- ・私たち大人も防災に関して意識を高めなければいけない」など、防災活動に向けた積極的な記述が多数見られた。



③ 防災紙マップをデジタル化、3D化し関心の高いものに

- ・H26年度：全世帯に防災紙マップを配付
- ・H27年度以降は防災電子マップを使って危険箇所等を追加
- ・H28年度：アナグリフ写真を使い3D化



児童の作文の一部

災害が起きてからでは遅い。
私たちが、今できることを探し、提案し、
呼びかけていくことで、さらに安心して住める
すてきな地域にしていきたい。

今回の活動を通して、
自分にこんなこともできるんだという、
「勉強することの楽しさ」と
「新しい自分」
を見つけることができました。

